

真の平和 実現しますか。

聖書通信 25

人類は地震、津波、洪水、台風、飢饉、疫病といった多くの災いを経験してきました。

そのなかでも最大の災厄は何でしょうか。

戦争です。

2度の世界大戦は1億人近い犠牲者を出し、その物的損害は天文学的数字に上ります。

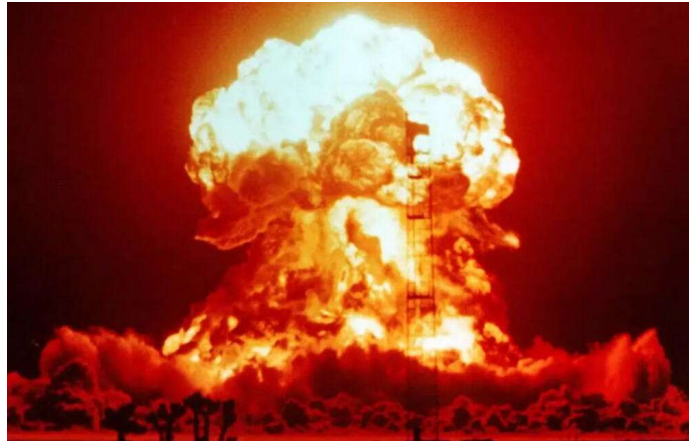
人類にとてつもない災厄をもたらしたと言えます。

しかし今日さらなる脅威が差し迫っています。

ウクライナ戦争はなかなか収束が見えてきません。

逆に核が使われるのではないかと危惧されています。

もし核戦争が起きるならば人類は絶滅の危機に瀕することは明らかです。



戦争のない平和な社会がいつか実現するのでしょうか。

宇宙を創造された神がおられるなら、平和な社会が実現すると期待できるのではないのでしょうか。

確かに神は平和な社会を実現させることを計画しています。

聖書の中にイエスが王として治める時、全地に平和が行き渡るという約束の言葉があります。

次のようにメシアの登場が預言されていました。

『私たちのために子（メシア つまり後のイエス）が生まれた
私たちに男子が与えられた。
彼は肩に統治の責任を負い
素晴らしい助言者
力強い神
永遠の父， **平和の統治者**と
呼ばれる。

彼の統治は限りなく栄え、
平和がいつまでも続く。
彼はダビデの王座につき、
王国によって統治する。
その王国は公正と正義によって確立され、
今もこれからもずっと存続する。
大軍を率いる熱心な神エホバがそうならせる。』

（イザヤ 9:6.7）

この約束は信頼できますか。

中国、ロシアなどの実情を見る時、とても平和な社会など無理だと思うかもしれません。

全知全能の神でも難しいと思われるでしょうか。

しかしこの日本に起きた事柄を振り返る時、世界が平和になることが、夢物語ではないことを知ることが出来ます。

昭和初期の日本に注目してみましょう。

日清、日露、第一次世界大戦と日本は拡張政策をとり、台湾、朝鮮、中国へと進出していきました。

富国強兵政策の下に満州を手中に収めようと画策していました。ゆくゆくは中国全土を支配下に置きたいという野望を持っていたのです。



1932年(昭和7)2月、ハルビンに入城する関東軍(共同通信社蔵)

軍隊が支配力を強め、戦争一色へと塗り替えられようとしている時代でした。

それからわずか20年後、富国強兵政策から平和主義への大転換が起きるなどと誰が想像できたでしょうか。しかし現実に変貌を遂げ、日本が他国に侵略するなど今日誰も夢にも思わないでしょう。

日本は侵略国家から、平和国家へと変貌を遂げたように、今の世界も真の平和な社会に変貌するのでしょうか。確かに変貌します。神が約束されているからです。

日本が変貌を遂げた要因を知る時、全世界も変貌を遂げることが出来るという確信を強めることが出来ます。

ではどのような要因があるのでしょうか。

- 1) **戦争の愚かさを心の底まで知った。**
東京、大阪など空襲で焼け野原にされてしまいました。
広島、長崎に原爆が投下され、戦争の愚かさを骨の髄まで知ったのではないのでしょうか。
- 2) **強い権力によって軍が解体された。**
マッカーサーが進駐軍として日本を支配し、その強い権力によって軍は解体されました。
天皇を中心とする国家から、民主主義国家へと生まれ変わっていったのです。
- 3) **平和憲法の制定**
国の基盤は憲法にあると言えます。
世界でもまれな非常に優秀な平和憲法の制定によって、平和国家として変貌を遂げていくことが出来ました。

4) 平和教育の推進

教育によって人々が作られ国が作られていきます。
自虐史観と言われますが、戦争の愚かさを教育され、再び戦禍のない世界を築くという決意を強める平和教育がなされていきました。

このようにして日本は変貌できました。不可能と思えたことが可能になったのです。
同じような要因があるゆえに世界も変貌できることを聖書は示しています。

1) 戦争の愚かさを心の底まで知る。

聖書には「ハルマゲドン」という世の滅びが記されています。
それによって人類は戦争の愚かさを骨の髄まで思い知ることになるでしょう。

2) 強い権力によって軍が解体される。

全知全能の神より強い方はいません。
神によって任命されたイエスは、マッカーサーがなしたように世界の軍隊を解体します。

聖書はそのことを次のように述べています。

『神は国々の中で裁きを下し、
多くの人々を正しい方向に導く。
彼らは剣をすきに、
やりを鎌に作り替える。
国は国に向かって剣を振り上げず、
彼らはもはや戦いを学ばない。』
(イザヤ 2:4)

3) 平和憲法の制定

憲法のように基いとなるものは聖書です。
聖書はまさに神の言葉として人々から敬われ、人種、国家、民族の違いを乗り越え、全ての人が愛で結ばれるようになるでしょう。

4) 平和教育の推進

聖書に基づいた平和教育がなされ、愛と平和に満ちた社会が実現します。

『私の聖なる山のどこにも、
荒らしたり危害を加えたりするものはいない。
水が海を覆っているように、
エホバについての知識が必ず地上に満ちるからである』
(イザヤ 11:9)

私たちは愛と平和に満ちた将来を待ち望むことができます。
そのための準備が今着々となされています。

今回は「心の平和」を、どのように築いていくかについて考えてみたいと思います。